

59
本校は瀬戸高校から、この4月本校に着任いたしまして、初見参でござります。小林旭もどきに申せば「渡り鳥、西へ帰る」であります。幾久しきご厚誼をお願い申し上げて、さて、皆様の母校西高をどのような学校にしたいか、ひい



『知的好奇心をいつまでも』

校長 柏植敬一郎

昭和52年開校の
当地・尾西高校を経
た後、西高を卒業す
る。その後、東京大
学総長の大河内一男
先生が、その卒業証書
授与式・式辞にお書き
になつた（しかし、いさ
さかがキザだと

ては、どのような西高生を創りたいか、所懐の一端をもつてご挨拶とさせていただきます。

それに先立ち、昨年、本校創立20周年記念式典を終えて、機よやく熟し、ここに、「同窓会報」創刊の運びとなりました。」同慶の至りであります。

さて、ほとんど10年も前にベスト・セラーになつた、トフラーという人の「未

来の衝撃」という本があり、その中に、今も私の頭の中に鮮烈に残っている、人の白髪の老人の次のようないエピソードが紹介されています。この老人は、もう77歳にもなるのですが、大企業の長期計画担当者や、大きな財團・出版社・研究所から派遣された職員らにまじって、或る「未来に関する社会学のセミナー」に参加していく、問われて、その参加の動機を述べました。

「私の名は、チャールズ・スタインである。私は、生涯、洋服の（アメリカです）から当然、そうでしょうが、洋服の仕立屋をやつてきた。私は、77歳だが、若い

ては、どうか、幾つになつても、未来について知りたい、知的好奇心を失なわない皆様であつてください。西高生であつていただきたいのです。いつの日か、遠い将来、子どもの前で・孫の前で、教養ある人間として死ねる皆様で・西高生であつてください。

かつて、東京大学総長・大河内一男先生が、その卒業証書授与式・式辞にお書きになつた（しかし、いさかがキザだと

ご自身お思になつてか、式ではおつしやらなかつた幻の）名セリフ、「ふとった豚になるよりも、やせたソクラテスになれる」を文字つて申し上げましようか。そ

うです。どうか、「適当にふとつたソクラテス」になつてください。皆様も・西高生も。そのため、飽くなき知的好奇心

おりに、暑中お見舞い申し上げます。

同窓会の皆さん、この世に沢山いる人間の中、友達こそはあなたの生きる宝です。友情で堅く結ばれた学校友達こそです。友情で堅く結ばれた学校友達こそです。生きた宝です。心を開いて相談できる友達が沢山あることにこしたことはないが一人でも一人でもいいから持つてください。同窓会が心のより所、「人恋しい」場となることを祈つております。

発刊の辞

同窓会長 山内進

宮西高校同窓会報

=発行=
愛知県立
一宮西高校
同窓会

同窓の皆様方におかれましては、それぞれの分野において責任ある立場にてご活躍の事と御拝察申し上げます。当西高も昨年創立二十周年記念式典が皆様方の御協力のもとに盛大にとり行なわれ、それと並行して同窓会名簿も十年ぶりに発刊され、皆様方のお手元に届けられた次第であります。そしてこの度、これを契機に同窓会報の発刊の声が持ち上がり、

色々と相談・検討の結果ここに発刊の運びとなり皆様方のお手元にお届けすることとなりました。さて今日我々を取りまく社会はかつてない変化と発展を続けてまいりましたが、皆様もすでに周知の通り中東戦争に依る石油危機に端を発した世界的な経済の狂乱は、私達の生活にたらぬ影響を与えてまいりました。これから二十一

時だと痛感いたします。こうした意味でこれから一年に一回の同窓会報を通して、お互いのコミュニケーションを計るといふことは大変意義深いものがあると信じます。

最後になりましたが、クラス会、OB会などの写真・記事等会報に掲載できるものを事務局までお送り下さい。以上をもつて発刊の御挨拶とさせて頂きます。

どうか、幾つになつても、未来について知りたい、知的好奇心を失なわない皆様であつてください。西高生であつていただきたいのです。いつの日か、遠い将来、子どもの前で・孫の前で、教養ある人間として死ねる皆様で・西高生であつてください。

以上がこの頃の同窓会の傾向についての特色ですが、なぜそうなったのかは、一つの理由で説明することができます。今は物の時代から心の時代に移りつづけられています。物の豊かさよりも心の豊かさを求めるようになつたからです。文明社会における人間軽視に気づいた人間復興とともにいえましょうか。極く簡単にいえば「人恋し」といいかえられましょう。

そういう心が、こういう傾向をつくり出しましたように思います。

同窓会の皆さん、この世に沢山いる人間の中、友達こそはあなたの生きる宝です。友情で堅く結ばれた学校友達こそです。友情で堅く結ばれた学校友達こそです。生きた宝です。心を開いて相談できる友達が沢山あることにこしたことはないが一人でも一人でもいいから持つてください。同窓会が心のより所、「人恋しい」場となることを祈つております。

同窓会に思う

前教頭 鈴木 友一

西高も今年で創立満二十年を経過しました。が、昔風に言えば「昔です。この三月には全日制は十八回、定時制は十六回の卒業生が社会に出て行きます。従つて西高同窓会も、その規模においても、その数においても、いよいよ发展期にさしかつたと思います。誠に喜ばしい限りであります。

ところで、同窓会をつくろうとする傾向が強くなってきたことです。これも何を意味しているのでしょうか。

第二次は、かつての先生が同窓会やクラブ会に出席することが最近大変多くなつたことです。これもまた何を意味するのでしょうか。

そこで、他校の行なっている同窓会の様子を聞いてみますと、最近の傾向として、そこに二、三の特色があるようです。一つは、同窓会の出席者が年々歳を重ねるための苦惱の時代が予測されます。こういった厳しい社会情勢の昨今、当西高の卒業生の集まりである同窓会と、いう組織を通して自己研磨をはかり、友情を深め対処していくなければならない時だと痛感いたします。こうした意味で、これから一年に一回の同窓会報を通して、お互いのコミュニケーションを計るといふことは大変意義深いものがあると信じます。

ときを得られなかつたものを得たい、と思う。私は、未来について知りたいのだ。そして、教養ある人間として死にたいのだ。

どうか、幾つになつても、未来について知りたい、知的好奇心を失なわない皆様であつてください。西高生であつていただきたいのです。いつの日か、遠い将来、子どもの前で・孫の前で、教養ある人間として死ねる皆様で・西高生であつてください。

かつて、東京大学総長・大河内一男先生が、その卒業証書授与式・式辞にお書きになつた（しかし、いさかがキザだと

八回生

(日興証券本社勤務)

高校時代を思つ

九回生 小笠原 優

(犬山市立城東中学校勤務)

私が西高を卒業したのは昭和四十九年三月だから、はや十年が過ぎた。ついこの間の様に思えるが、高校時代を振りかえる事は所謂昔前を思い出す事になる。

今は仕事の関係で東京での一人住いが六年目となるが、丸ノ内のビジネス街で生き馬の目を抜く様な生活を続いていると、ふと西高を卒業からみた伊吹山や長閑な田園を思い出して心が和む事がある。

当時はまだ一宮高校と学校群になる前であり、現在の受験地獄などといわれる状況から較べれば信じられない程のんびりとした又、結構のびのびとした高校生活であった。大学受験を控えた三年生といえども、放課後は始終みんなでサッカー野球に興じていたものである。

唯一不幸な出来事といえば、西高入学時からのクラスメートで、大学卒業後は養護学校の先生となつた親友(近藤富裕君)が、心労からノイローゼとなり自殺してしまった事で友人からの電話で連絡を受けた時は非常にショッキングであつた。彼は明朗快活な性格で野球のアーチストをやり成績も優秀で、いつもトップクラスだった。何か相談にのつてやれる事があつたのではと、悔まれ非常に残念である。

新幹線ならばわずか二時間程度の距離とはいえ、一年に数回しか帰らず、その後ごぶさたしている先生や友人も多くなつてしまつたが、何も連絡がないのは元気で活躍されている証拠と思い、私もみんなに連れをとらじと、頑張っている毎日である。

十回年 中野 芳広

(一宮市立萩原中学校勤務)

私は現在萩原中学校で保健体育の教師をして、四年目を迎えています。隣に我が母校西高があり、萩原の地には、何か同じ職場に西高出身の後輩、河合敦也君がおり、よく高校時代のなつかしい思い出話を花を咲かせたものでした。また今年も大山高校へ私が高校時代恐れいで生徒指導部の戸田元照先生が校長として転勤されました。大山市という遠い所でも、西高出身者とかかわることがよくあるのです。

自分の高校時代をふり返ると思い出されるのは野球部のことばかりです。入学した頃は野球同好会として必死に野球部設立の為に活動していました。そして夏には野球部が認められたのですが、私にとってはラッキーでした。それは今まで数多くの同好会の先輩方の苦労があったからなのです。そのおかげで三年間野球をやることができたのです。こんな気持ちも、今になって本当に思つようになりました。年二回の野球部のOB会で、當時の先輩、同級生、後輩に合うのが楽しみなのです。

私は新聞等で運動部の活躍とか、大学合格者とか今でも西高のことが気になります。やはりそれだけ西高出身ということに誇りを持っているのでしょうか。

昨年は西高創立三十周年ということでましたが、今後増々の発展を願つていています。このような学校で私は、幸運です。

生徒の育めざして頑張る覚悟です。
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
か体験できなかつたとは思つが、それでも自分の将来を賭けてもいいと思わせる何かがあつた。教師という職業は、非常な困難を伴つが故に、生甲斐を感じることができ、又、修練を余儀なくされて自己啓発も望むことができると思つたのである。

十五回生 二俣 好美

(名古屋大学在学)

大学へ入学してから早いもので、四度目の夏が訪れた。学生生活最後の年を私は、現在中学校の体育教師として毎日忙しい日々を過しています。昨年までは同じ職場に西高出身の後輩、河合敦也君がおり、よく高校時代のなつかしい思い出話を花を咲かせたものでした。また今

御迷惑をおかけしなつかしい思い出と縁があり頑張つております。

今思えば西高時代は先生方にいろいろ立場に立ち生徒を指導しているのです。

今年の三月、自分の受け持つた生徒が卒業しました。何もわからずこの世界に入つた私にとって、日々失敗の連続でした。しかし、苦労しただけに思い出が、今になつてなつかしく思えます。卒業生が時々学校へ近況報告に来てくれますが、今年の私にとってその生徒たちの将来が樂しみです。まだまだ未熟者の私ですが、

子どもに何らかの形で関わることができる職業に就きたいと、常日頃考えてい

た私であるが、先日母校において、「週間の教育実習を経験させていただき、教師」という職業的で絞ろうと決意する

年に至つた。実習前までは出版社に勤めて、フランスの児童図書を日本に紹介したい

と思ったのであるが、実習を経て、直に後輩のみなさんと接し、非常に興味を覚えたからなのである。短期間の実習

二) 案 内

同窓会総会を左記の要領で実施いたします。
会員各位の御出席をお願いします。

● 日 時 八月十九日 午後十一時より

終了後、立食パーティー(無料)を準備しております。

● 場 所 母校・体育館

私が常日頃生徒たちに言つてゐる言葉は、「強い信念を持て、消極的に成功するよりも積極的に失敗せよ」です。そうした

※なお準備の都合上、八月十日までに同封の葉書で出欠をお知らせ下さい。

